

第5回稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議 会議録

【日 時】平成28年3月28日（月） 午前10時00分～11時15分

【場 所】稲沢市役所議員総会室

【出席者】稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議委員（敬称略）

秀島栄三	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
小森昌哉	共栄食品株式会社代表取締役
加藤鉄一郎	愛知県立稲沢高等学校教諭
森岡庸晃	稲沢金融懇話会幹事
鈴木 忠	連合愛知尾張南地域協議会稲沢地区連絡会議長
稲熊雅子	三工機器労働組合執行委員
田中里奈	公募
礪石秀幸	公募
服部勇希	公募
山田涼加	公募

〈事務局〉

大野紀明	市長
篠田智徳	市長公室長
足立直樹	企画政策課長
大口 伸	企画政策課主幹
吉川修司	企画政策課主査
新見 巧	企画政策課主任

【議事次第】

1 市長あいさつ

2 議事

- (1) 「稲沢市人口ビジョン」及び「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について
- (2) その他

【会議の概要】

1 市長あいさつ

おはようございます、年度末でお忙しい中、第5回稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議にご出席くださり、厚く御礼申し上げます。

人口ビジョン及び総合戦略の策定作業が終わり、公表をする時期となりました。多くの方の意見や提言によって、ここまでたどり着くことができました。誠にありがとうございます。本市においては、この総合戦略をいかに実現していくかが大きな課題であり、これからが本当の意味で地方創生元年のスタートであると考えています。

また、先日開催された稲沢市まちづくりシンポジウムにご参加いただき、ありがとうございました。愛知文教女子短期大学や名古屋文理大学の学生の皆様より、本市に対する想いを発表してもらいました。若者と我々の世代では感覚が違くと深く感じ入りました。シンポジウムが成功に終わりましたことを、改めて御礼申し上げます。

さて、これまでの会議の中で人口シミュレーションを提示してまいりました。少子化が大きく響き、今後数十年間は人口減少が避けられない状況が続きます。高度経済成長期のような成長は望めないでしょう。世界全体の経済情勢に目を向けると、アメリカもヨーロッパも不振であり、日本だけ安泰というのは難しい状況に思われます。先行く不透明感を拭い去れない中、国がどのような経済対策を行うのか分かりませんが、今の状況で判断していかなければなりません。今の関心事としては、地方交付税の問題、そして地方交付税の財源となる所得税や法人税、消費税といった税収がどう変化するのか、それにより本市の歳入がどう確保されるのかという点にあります。歳出に関しては、高齢化進展による福祉の経費、いわゆる扶助費等が今後も伸びます。こうした現実をしっかりと見て、行政の持続性を考えながら今後進めていきたいと思えます。

まちづくりというのは、将来にわたって本市をどのような形で存続させていくのか、ということです。総合戦略策定後は、着実に実行してまいりますが、本市が将来のあるべき姿に向かっていく過程では、計画を適宜見直す必要もあると思っています。

現在、国は地方創生の旗を振っていますが、各自治体のことは各々に任せる、計画内容にまで指示をしないというのが国のスタンスです。国は指導的な立場にあるものの、国からの交付金については各自治体で使い方を考えなさい、自分たちの計画は自分で作りなさい、ということです。また、国は、総合戦略は策定して終わりではなく、進行管理する過程で積極的に見直すよう要請しています。しかし、このことは、時間や人、予算の都合で、安易に数値目標を下方修正したり、事業を先送りすることではなく、より効率的で効果的な手法に改める決断を、適切なタイミングで行わなければならないということです。厳しい時代においても、本市が魅力あるまちづくりを続けられるように、そして、人口減少対策に成功したまちとなるよう、今後も皆様方のお知恵をお貸しいただければありがたいと思っています。総合戦略は平成31年度までの計画期間であり、毎年チェックをし、改善点

は改めていきたいと思っております。

今後もさらなるご支援、一層のご協力を賜るようお願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

2 議事

(1)「稲沢市人口ビジョン」及び「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について

[会長]

最初に、協議事項の1「稲沢市人口ビジョン」及び「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、事務局から説明願います。

=事務局=

【『稲沢市人口ビジョン(案)』『稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)』に対するパブリックコメントの実施結果】、『稲沢市人口ビジョン』新旧対照表、「稲沢市人口ビジョン」、「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について説明】【資料1～4】

○質疑

[委員]

パブリックコメントの結果を受けて変更した点はあるのですか。

[事務局]

パブリックコメントの意見を受けての修正点はありませんが、議会等の意見も受ける中で、資料3人口ビジョン P49（2060年の将来人口展望）の文章を修正することになりました。

[委員]

資料1パブリックコメントの実施結果のP4に、下津地区の人口増加で保育園や小学校のマンモス化という課題が生じているのではないかという意見がありますが、確かにその通りではないかと思えます。今後、人口減少に歯止めをかけるために名鉄国府宮駅周辺を開発する際は、下津地区に生じた課題を踏まえて取り組むことが重要ではないでしょうか。

もう1点、資料2人口ビジョンの新旧対照表では、2060年の将来人口展望の2段落目の冒頭に、「市民、事業者、行政」だけでなく「議会」も一丸となって、と記載があります。別の機会ヒアリングをしている議員からは、具体的な施策やアイデアが出ているのでしょうか。

[事務局]

最初の意見はその通りであると考えております。マンションの入居スケジュールが、想定と異なる事態が生じるなど、人口増加は予想し難い面もありますが、名鉄国府宮駅周辺を再整備する際、同じ轍は踏んではいけないと思っています。

もう1点、議員からのアイデアについてですが、議員は他都市の事例について視察等を行っています。他都市における宅地供給の規制緩和としては、都市計画における線引き以前からの居住者を対象に規制緩和を県に働きかけることや、市街化調整区域において条例指定をすることで宅地開発を実施できる地域を増やす手法が考えられ、そのような事例について意見をいただきました。また、本市にある11の鉄道駅周辺の開発を行ってはどうかという意見や、国府宮駅から緑町にかけての田んぼも市街地に厚みを持たせる重要な地域であり、将来的にはそうした地域も整備対象として考えるべきではないかという意見もありました。

向後5年の総合戦略では、国府宮駅周辺の再開発に絞り込み、既存の市街化区域の高度利用を中心に考えています。現在掲げる目標や課題を1つ1つクリアした後に、そうしたご意見についても検討していくことになるかと想定しています。

[委員]

パブリックコメントでも言及があるのですが、資料4総合戦略を見ると、名鉄国府宮駅やJR稲沢駅の周辺開発など、今まで通りの開発が主体であると受け止められる可能性があります。本来、本市は名古屋に近いという地の利があり、これは長期的に変わりません。その強みを生かす目玉として駅周辺の開発が掲げられています。単に開発を主体とする従来型の計画とは異なり、名古屋に近いというポテンシャルを生かしきれていないことが、事の始まりであるという発信を市民にできたら良いと考えます。

[委員]

なぜこの5つの重点戦略が作られたのかというストーリーや記述は資料4総合戦略P13にあります。若干弱いかもしれませんが。

[委員]

名鉄国府宮駅周辺を整備し、交通の便が良くなることは大切です。しかし、資料1パブリックコメントの実施結果の2番目の意見にもあるように、名鉄国府宮駅周辺の再整備においては、単純に利便性を追求するだけでなく、緑の整備もしっかり実施されると良いと感じます。利便性と緑の両方が、十分に追究されることを望みます。

今までの議論では、とりあえず名鉄国府宮駅の周辺整備を行う、という形で話が進んでいるように思われます。実際に名鉄国府宮駅周辺を再整備する際には、緑を増やすことに

ついて市がどう考えているのか伺いたいです。

[事務局]

名鉄国府宮駅の周辺整備において、ある程度の緑は必要と考えており、生活緑化という意味での緑になることを想定しています。

シティプロモーションで成功した流山市では、つくばエクスプレス開業に伴う駅周辺の開発で住民誘致を行いました。流山市は、駅周辺を大規模に開発する一方、駅から離れた場所には自然豊かな地域がある、という生活環境の魅力を訴えています。本市でも同様に、名鉄国府宮駅周辺を中心に人を惹きつける一方、市全体では緑が多いという奥行きがあるイメージ戦略で、本市でのライフスタイルを具体的にイメージ喚起することが、今後の方向性になると考えます。

[委員]

名鉄国府宮駅周辺の再整備が行われる際には、緑の整備など、住民の意見を取り込む機会はあると思ってよいのでしょうか。

[事務局]

今後、名鉄国府宮駅周辺の再整備に関する調査を行うにあたり、地域の方々の意見もいただきながら進めていくと考えます。名鉄国府宮駅周辺の緑の整備については、住環境の整備という形で進めていくものではありませんが、本市は名古屋市から電車で10分という立地にありながら、拠点駅から車で少し移動したら緑で潤おう地域もある、そのようなことを謳って市の魅力づくりを行い、シティプロモーションにも繋がればよいと考えています。

[委員]

私も資料1パブリックコメントの実施結果の2番目の意見に共感しました。戦略会議を通して、植木のまちという言葉があまり出ていなかった気がします。駅周辺の近代化と緑の確保を同時に進めることは難しいですが、市民の意見を適切に取り入れて、うまく折り合いを付けられたら良いと考えます。スマートジャパンという潮流もあり、個人的には、名鉄国府宮駅がスマートな駅になることを望んでおり、日本の良さや趣を駅周辺整備に取り入れて、スマート稲沢になったら良いと思います。

[会長]

本市が植木のまちであることを考慮して、今後の方向性を検討していただく必要があるかもしれません。

他に発言もないようでしたら、この場で資料3人口ビジョン、資料4総合戦略についてご承認をいただくこととなります。皆様、人口ビジョンと、総合戦略についてご承認いただけますでしょうか。

(意見等なし)

[会長]

異議なしということで、承認とさせていただきます。本案に基づいて、事務局で公表の準備を進めてください。

本日は今年度最後の戦略会議の場となっております。人口ビジョン・総合戦略が策定される節目でもありますので委員の皆様より一言コメントをいただきたいと思います。資料の内容に限らず、事務局への期待や要望も含め、どんなことでも結構です。よろしくお願いいたします。

[委員]

様々な施策がある中で、それぞれに課題があり予算面でも苦労があると思います。例えば保育所1つを新設するにしても、苦しい経営が最初2、3年は続くなど、非常に厳しい状況が出てくると思います。ぜひ地域単位の特性と総合戦略とを連動させながら事業実施に着手していただきたいと思います。

先程、緑のまちという話が出ました。以前から感じていることですが、市内の街路樹は伐採が早いという感覚を持っています。造園屋さんが多い土地柄も影響しているのでしょうか。均衡のとれた都市やまちでは、信号や道路等のインフラに支障が出ない範囲で、枝などをぎりぎりまで伸ばしているように思われます。そういった環境面を一つの魅力とすることで、本市の魅力が増すように思います。

従来型の考え方だけでなく、普遍的な価値観を取り入れることが大切と考えます。その結果、成熟した社会になり、様々な人が終の住処として本市を選ぶようになるのではないのでしょうか。

[委員]

パブリックコメントの実施結果を見ると、良いことを行うにはお金が必要だと感じました。例えば、国会等でも「保育園落ちた」の匿名ブログで保育施設の問題が話題になりましたが、実際に対応していくにはお金が必要です。本市でも、施策について様々な意見を取り込めたら良いのですが、お金の問題は切っても切れません。

個人的には、緑は最も興味がありますが、植えてそれで終わりかという、その後には維持管理の費用が生じてきます。例えば、虫の駆除作業などがあります。ハード面に費用

がかかるのであれば、地域の方の協力を得るなどして、せめてソフト面で節約を図る必要があります。地域によっては、アダプトプログラムといって、街路や公園を地域で管理する手法があります。例えば、自宅前に落ちている落葉の清掃や雑草の手入れなど、地域が地域を育てていく視点が必要ではないでしょうか。

財源は無限ではなく、いかに有効に使っていくかが重要です。それを踏まえた上で、植木のまちや緑をアピールすることができ、ずっと住みたいまちとして印象に残っていけば良いと考えます。

[委員]

私自身は、仕事でこちらに来て1年が経ちます。本市をもっと早く知っていたら住んでみたかったと今でも思っています。この会議は本市をより良くするためのものでありますが、既に良いまちだと思っています。派手なキャッチフレーズを掲げる手法もありますが、地の利など、市の良いところを、愛知県を始めとする中部4県に愚直に訴えていき、広く「稲沢」という地名を知ってもらえたら、自然と人が集まる可能性のある地域だと思っています。

[委員]

本日、人口ビジョンや総合戦略が策定され、一定の区切りを迎えました。これからの実行段階がより重要です。そのためには、3つの要件が重要であると考えます。

1点目、PDCAサイクルを回して総合戦略を進行管理していくことが重要になります。掲げられた目標を実行し、チェックをして目標を誤ったと思うのであれば、修正を行うことも必要と考えます。

2点目、人口ビジョンや総合戦略を達成するためには、市側が強い信念を持つことと、市民・事業者・議会等の協力していく側が大人の感覚になることが大事だと思います。パブリックコメントの実施結果を見ると、個人の要望に近い近視的な意見もあつたりしますが、自分中心の視点ではなく、将来の稲沢市を考えた視点が、協力していく側にも必要になると思います。

3点目、計画の実行においてはお金を工面していくための検証が重要になります。また、人・物・金・情報といったリソース全般を上手く取り回し、いかに実行していくかが重要になると考えます。その検証については、PDCAサイクルと関連付けながら行う必要があります。こういったことは労働組合委員の時にも思っていました。

[委員]

出生・転出入・雇用といった問題は、あくまで個人的な意思や事情が関係する問題であり、行政がどれだけ議論をしても直接は解決できない問題かもしれません。そうした問題

を解決するためには、大変かもしれませんが、市が先んじて様々なプランを立てないと、皆が付いて来ないでしょう。総合戦略の計画期間中に市議も変わると思いますが、今まで議論してきたことが無駄にならないように、継続的に推進してほしいと考えます。

[委員]

会議に参加して感じたことが2点あります。

1点目は個人の感想に近いかもしれませんが。私は祖父江地区に20年近く住んでいますが、本市や他の地区について知らないことがたくさんありました。先程、稲沢は植木のまちという意見が出ましたが、私の感覚では植木より先に銀杏が連想されるので、植木のまちと聞いてもピンとこないというのが正直な感想でもあります。総合戦略では、市全体でどのように動いていきたいかが打ち出されています。合併したメリットを生かすことも大切になるでしょう。しかし、各地域に目を向けると取り組むべき課題が異なっている場合もあります。例えば、下津地区では最寄りの保育施設に入りきらないほど子どもが多い一方で、祖父江地区には子どもが少なく、寂しいと思うこともあります。地域毎に異なる課題にも目を向けて、今後取り組んでもらいたいと考えます。

次に、2点目です。パブリックコメントでは16件の意見があり、皆様強い思いをお持ちのようです。そういった意見を伝えたり拾ったりする機会が確保されると、市全体で一体感が生まれてくると思いますので、検討をしていただけたら良いと考えます。

[委員]

人口減少は回避できない問題であるということがデータで示されました。このようなデータに接する人は少ないと思われるので、若者を代表して見ることに意義を感じました。また、若者に本市の現状や取組みをより知ってもらう必要性を感じました。

市民、事業者、行政、議会が一丸となって取り組むとありますが、リードするのは市の職員だろうと思います。時間を確保するのは大変かもしれませんが、地域に出向いて代表者を集めるなどして、要望を計画に取り込めるか素早く検討し、市民の意見が少しでもビジョンや計画に反映することができたら良いと考えます。人口減少に歯止めをかけることは大変かもしれませんが、様々な人の力を借りる中で、市が力を付けていってくれたら良いと思います。

[委員]

この会議を通して本市について知らないことを多く学ぶことができ、参加した意義を感じました。先に他の委員が言われたように、出生率に関係することなどは個人の意思等が尊重されるもので、他人が決めることではありません。しかし、市をPRすることで、個人の意識に変化が生じるようになったら良いと思います。

[委員]

この会議に参加したことで、本市や市内他地区の現状、長所や短所を知ることができました。パブリックコメントを見ると、市民の考え方は千差万別ですが、市を良くしていきたい点は共通していると感じました。

これからを担うのは今の若者ですので、若者に現状を知ってもらうことが重要だと思いました。市民や地域の人が協力をしてまちづくりを行えるようになると、共通の意識が確立されてきて、良い方向に作用すると考えます。皆が「やってやるぞ」という雰囲気になっていったら良いと思います。

[会長]

ありがとうございます。私からまとめをさせていただきます。今後、どこの自治体も人口減少を迎え始め、経済成長が鈍くなってくると思われれます。縮小社会を不安に思うかもしれないませんが、日本より小さな国でも上手にやっている国は多くあります。問題なのは、それまで積み上げてきた幅広い意味での物的あるいは人的資産が減っていく中で、どうやりくりしていくのかということにあります。小さいことに問題はありませんが、小さくなっていくことに問題があります。痛みを伴った対応が必要になることもあるでしょう。

このような背景があるために、国を挙げて地方創生が行われています。率直に言うと、地方創生の施策は状況の厳しい自治体に向けたものである面もあります。国は全自治体に総合戦略の策定を努力義務として要請していますが、そこまで状況が厳しくない本市は、総合戦略を策定しなかったとしても存続していく可能性はある自治体ではないかと考えています。しかしながら、総合戦略を策定したことで、市の個性や強みを磨くための検討ができたと考えています。特に今後は、5つある重点戦略を皆が明確に共有し、やるべきことをはっきりさせることが重要です。現在は大きく成長する時代ではなく、やれることに限りがあります。選択と集中ということで、この5つの重点戦略は絶対に成功させるつもりで、市や議会の方には決断をしていただきたいと思います。

この会議には学生が参加しており、最初は戸惑いましたが、結果的にはとても良いことだと思いました。今後も広い年齢層から市民の参加を募り、特に女性に参加していただくことが重要と考えております。また、こちらから求めて聞かない限り、小さくなりがちな方の声も集めてほしいと思います。以上が私の意見となります。

各委員の意見も踏まえ、市長からもご意見いただければと思います。

[市長]

委員の皆さんから様々なご意見をいただき、感謝申し上げます。行政を運営していますと賛否両論になることがよくあります。先程の緑の話も、植えて終わりではなく、維持管理が必要になります。例えば、緑町では現代的な住宅が昭和45年頃に造成され、当時は家

1軒につき車1台があり、庭にも緑があった時代でした。しかし、緑の手入れにはお金がかかることや、保有する車が複数台に増えたことで庭の緑が縮小した経緯があり、この現象は名古屋市等においても生じています。このように緑の需要が減ることで、植木産業は衰退していきます。市街地が増えることで緑が無くなる、この問題に対応するためには条例を定めることで、意識啓発を行うことも一案であると思います。そうすることで、長浜市や倉敷市のように皆で地域を盛り立てて緑を維持していく、そこに緑の存在価値があるとも考えます。

本市には植木・苗木の地場産業を支えてきた歴史があり、絶やすことはできません。しかし、緑を使うとなると大変な苦勞がかかります。先程の話に出た街路樹の剪定については、切って叱られ、切らずに叱られ、という状況にあります。また、樹木には鳥が飛来するため、羽や糞がまちに落ちることになります。以前、鳥の糞に苦情が寄せられケヤキの木を伐採を求められたことがありました。切り倒すわけにもいけないので、植わっていたケヤキの木は市民会館に移植しました。そういった現実的な問題も生じますので、地域の方々が、街路樹や低樹木の管理について協力しましょうという話が出てくれば、まちに緑が増えるのではないかと思います。

さて、昨年の夏から5回開催してまいりましたこの戦略会議において、多くのご意見やご提言をいただきありがとうございました。総合戦略と同時進行で第6次総合計画を平成27～29年度にかけて策定しておりますが、平成28年度が正念場となります。審議会の設置も予定しており、市議会議員や市民の皆様にも委員として入っていただくことを考えています。総合計画の策定に関わる皆様にも、総合戦略の実現が第一であることを説明していくつもりです。

人口減少によって発生する財政上の問題が気がかりであり、対処するにあたっては痛みを伴い、不平が多く出てくるかもしれません。例えば、私の子ども時代にクーラーはありませんでしたが、財政的に厳しくなったからといって、クーラーをやめられるのでしょうか。一度享受した便利さを手放せるのかということです。広げすぎた風呂敷を小さくすることは非常に難しいものです。いつも申し上げていますが、例えば災害が起きたときにはサバイバルゲームとなります。お米があってもガスも電気もない状況でどうするのか、鍋一つとお米でどう料理をするのか。非常時に大切なことは、食べることです。自分の身をどう守るか考えないと、他人任せになってしまいます。

いずれにしても、人口減少対策についてはチキンレースにならないようにしたい想いです。このまちに住みたいから住んでもらう、というのが理想だと思います。総合戦略は平成31年度までの5年間の計画ではありますが、計画期間後も住みやすいまちを追求していき、一歩ずつ歩みを進めていきます。全てが予定通りの進捗とはならないかもしれませんが、総合戦略を着実に実行できるよう、本日まとめさせていただいた内容に基づき、全市を挙げて進めさせていただきます。5回の会議においてご議論していただき、ありがと

うございました。委員の皆様におかれましては、5年の任期に関わらず、今後ともよろしくお願いいたします。

(2) その他

[会長]

協議事項2について事務局から説明をお願いします。

[事務局]

今後について、2点お知らせをします。

1点目、人口ビジョンと総合戦略の公表については、内部決裁を経た後にホームページと市役所1階の行政情報コーナーにて公表します。

2点目、戦略会議の来年度以降の予定です。平成32年8月3日までの5年間に委員の皆様の任期としています。来年度については、総合戦略の進行管理、施策の効果検証についてご審議いただくことを考えています。開催時期は、決算後に各課からのとりまとめが終わる7～8月頃を考えていますので、よろしくお願いいたします。委員の皆様におかれましては、異動や進路の都合もあると思いますので、個別にご事情やご意思を確認させていただきたいと思います。

[会長]

委員の皆様については5年間の任期ですので、引き続きお付き合いのほど、よろしくお願い致します。

以上をもちまして本日の協議事項は全て終了します。委員の皆様につきましては、活発に議論していただきまして本当にありがとうございました。来年度以降も皆様のご協力をお願いします。

[事務局]

それでは会議を終えるにあたりまして、篠田市長公室長より一言あいさつ申し上げます。

[市長公室長]

1年間本当にありがとうございました。人口ビジョンや総合戦略策定のために、会議への出席や、事前説明にお時間をいただきありがとうございました。また多くのご意見をありがとうございました。皆様のおかげで無事に策定へと至ることができたと思っています。重ねて感謝申し上げます。

市長が申し上げたように、総合戦略は作ることが目的ではないため、今後の取り組みが重要です。また、PDCAサイクルによる進行管理も重要だと思っており、今後ともご協

力をいただきたいと思います。本日はありがとうございました。

[事務局]

以上をもちまして、第5回稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議を終了させていただきます。本日はお忙しい中、会議に出席いただきまして、誠にありがとうございました。